



ひとりが変える。 みんなで変える。

内閣官房内閣人事局内閣参事官(内閣・内閣府・総務省・財務省・金融庁・デジタル庁担当)
併任 総務省行政管理局管理官

越尾 淳 KOSHIO Atsushi

- 平成 9年 4月 総務庁採用
同 行政管理局企画調整課係員
- 平成 15年 7月 総務省大臣官房管理室公益法人行政推進室参事官補佐(企画担当)
- 平成 17年 7月 総務省人事・恩給局参事官補佐(人事評価、管理運用担当)
- 平成 18年 6月 行政改革推進本部事務局参事官補佐
- 平成 19年 1月 林芳正内閣府副大臣秘書官
- 平成 20年 7月 総務省行政管理局行政情報システム企画課
個人情報保護室・情報公開推進室課長補佐
- 平成 21年10月 内閣官房内閣総務官室(法案準備室)参事官補佐
- 平成 22年12月 内閣府NPO新認定制度準備特命室参事官補佐
- 平成 23年 7月 総務省人事・恩給局総務課課長補佐
- 平成 24年12月 稲田朋美国務大臣秘書官
- 平成 26年 9月 総務省大臣官房秘書課課長補佐
- 平成 27年 8月 内閣官房内閣人事局企画官(総括担当)
- 平成 29年 7月 内閣官房行政改革推進本部事務局参事官
- 令和 元年 7月 総務省行政評価局政策評価課長
- 令和 2年 7月 内閣官房内閣人事局内閣参事官(企画担当)
- 令和 4年 6月 内閣官房内閣人事局内閣参事官(内閣・内閣府・総務省・財務省・金融庁・デジタル庁・こども家庭庁担当)
併任 総務省行政管理局管理官
- 令和 5年 4月 現職

stay hungry, stay foolish

学生時代、当時の総務庁事務次官が私の大学へ講演に来て、印象深い話をしました。曰く、「ウチに来たら学生気分を忘れるな」と。今思い返すと、ステイブ・ジョブズの言葉で有名な“stay hungry, stay foolish”と同じ意味合いだったのかもしれません。

各省庁はその道のプロです。行政管理を担う私たちは、そのプロに対して、その仕事はやめてもよいのではないかと、こんなやり方をした方が効率的ではないかといった提案や審査、評価をすることが仕事です。より良い行政の実現のためというゴールは相手と共有できても、そこに至るプロセスでは激しく衝突することもあります。

そんな厳しい局面を乗り越えるには、ひとりの人

間として、易きに流れず、自己の良心と常識を持って事に当たり、全力で相手を説得して、その気にさせる強い意思が必要です。そんな率直さやひたむきさは、しがらみのない若者らしさとも言えるでしょう。それを役人になっても忘れず、実践しると次官は言いたかったのだと思います。これは私の経験に照らしても、行政管理を担う職員に不可欠の資質であると考えます。

筋を通す

私は長く内閣官房で幅広い行政改革の業務に携わったほか、政務の秘書官を2回(行政改革担当大臣、内閣府副大臣)経験しました。時の政権の重要課題に参画し、行政と政治の目線や判断の違いを体感できたことは得がたい経験でした。

一方、秘書官時代には、信念を持って上司たる大

臣とサシで議論し、「あなたの言うとおりだ」と言われたこともありました。

このように私たち総務省職員は、それぞれの立場で筋を通す存在であるからこそ他省庁から一目置かれ、特に内閣官房では各省庁の利害を捌き、まとめるという重要な仕事を任されてきたことが多いのだと思います。

求む、ハングリーな改革者

今後の労働力人口減少も見すえれば、仕事があるから人が必要という単純な発想を霞が関は捨てるべきです。生成AIの活用をはじめとしたDXを果敢に進め、女性、シニア、中途採用などメンバーの多様性を有し、変化への強靭さを持つ組織へと変革することが急務です。だから、変化を恐れず、改革することに貪欲な皆さんに加わってほしいのです。

ハングリーな皆さんが来てくれるのを待っています。一緒に霞が関を変えましょう。



平成26年5月、内閣人事局発足の日に秘書官として支えた稲田朋美国家公務員制度担当大臣と



友人のバンドNONA REEVESとライブの楽屋にて

若手職員の声



内閣官房内閣人事局 行政組織担当

植竹 史雄
(令和4年入省)

私は現在内閣人事局に出向し、国の組織、定員管理のとりまとめに携わっています。各府省の組織と定員は、効率的、効果的な行政の実現に向け、毎年審査が行われます。審査の結果は翌年度の日本の行政組織の姿となり、その積み重ねが国家行政の歴史になります。

査定期は侃侃諤諤の議論が交わされ、熱を帯びることもしばしばですが、翌年度の行政組織の姿が見えるまで、全員で一致団結して考えていきます。

また、行政組織担当では自由なアイデアで仕事することを大切にしています。越尾参事官をはじめ、フラットに声をかけてくださる先輩方も多く、職場はいつも明るい雰囲気です。

PROJECT

組織・定員・法人の トータルマネジメント

毎年夏から年末にかけて、財務省が各省庁から提出された予算要求を審査していることは有名ではないかと思いますが、私たちは、予算以外の役所を動かすリソース、具体的には組織、定員要求の審査を担当しています。私の担当は内閣官房・内閣府・総務省・財務省・金融庁・デジタル庁と多岐にわたります。特に、時の政権の重要課題を担当することが多く、こども家庭庁の新設やサイバー安全保障のための体制強化といった我が国にとって待ったなしの問題に取り組むための体制づくりについて、要求省庁と一緒に議論し、まとめました。

また、政策実施機関である独立行政法人の目標設定や業務遂行状況についてチェックすることも行っています。